

## I-B-1 特発性間質性肺炎に対する小柴胡湯の効果 -対照群との比較検討-

札幌医科大学第三内科

○田中裕士, 菅谷文子, 五十嵐知文, 山岸雅彦, 笹岡彰一, 阿部庄作

〔目的〕 特発性間質性肺炎は原因不明で進行性の予後の悪い疾患であり、有効な治療法はない。慢性型の本肺炎の東洋医学的病態についての記載はこれまでにないが、病変の主座が半表半裏にある小陽病期と考え、小柴胡湯を投与し、その有効性について検討する。

〔対象・方法〕 厚生省「間質性肺炎」研究班による臨床的診断基準を満たした29例を、小柴胡湯を投与した9例（投与群）と投与しなかった20例（対照群）に分けて最長43ヵ月まで検討した。小柴胡湯は5g/日または7.5g/日を連続10ヵ月以上投与し、臨床症状（咳嗽、息切れ、全身倦怠感）、血沈、LDH、肺機能（肺活量、拡散能、動脈血酸素分圧）について比較検討した。効果判定は、臨床検査の「有効」は、肺活量、拡散能が10%以上改善または血沈の30mm以上の改善。自覚症状の「有効」は臨床症状（咳嗽、息切れ、全身倦怠感）のいずれか1つ以上の改善をもって判定し、総合的な判定は、（有効）が臨床検査、自覚症状がともに「有効」、（やや有効）がいずれか一方が「有効」、（無効）がともに「有効」でないとした。

〔結果〕 投与群では咳嗽の改善が2例、息切れの改善が1例、全身倦怠感の改善が1例、肺活量の改善が2例、拡散能の改善が1例であり、総合的な判定では（有効）1例、（やや有効）3例、（無効）5例であった。投与群の中で小柴胡湯の証を持っていたのは、（やや有効）のうち2例であった。小柴胡湯投与による副作用は見られなかった。一方、対照群では臨床検査、自覚症状とも改善した例はなかった。

〔結論〕 小柴胡湯の投与により改善した例が認められたことより、特発性間質性肺炎のなかで漢方治療の適応となる症例の存在することが示唆された。